

大阪城

2022
7/25 (月)
14279 号

全港湾
西成分会

224
6647-
4947

ウイルスの第7波が襲ってきている。

オミクロンウイルスの変移型「BA.5」とかいうらしい。日本の研究者や研究団体は病原性についてまだ判断結果を出せてないようだ。

政府や政治はウイルスに打って武装解除状態で、経済を回すこと優先のようで、明確な科学的で医学的対策や方針を出せてない。

7/22に死者55人、総数102万6294人の死者(7/22現在)を出した統領もウイルスに感染中かというアメリカでは、

2回以上感染した人は死せずリスクが2倍超、入院するリスクは約3倍に上った。後遺症が出るリスクも約1.8倍高かったとのセントルイス・ワシントン大学の報告があるという。後遺症についてもウイルスの断片が体内に残っている人々作用・反応をおこすと見られており、調査が続いている。日本ではまた、ウイルスに対する研究の成果が発表されていらない。

ちゃんとして政治が財政的手をあてて、早く成果を発表させるべきだろう。それも重要ならウイルス対策である。日本政府の、マスクだけしておまじら勝手に対策しておけ、おたいな、今の感染対策では死者や重症者はふえつづけていっている。科学的・医学的に現実をはっきりとらえ、発表しないのだらう。

コロナ 日本は行動制限なしで第7波を乗り越えられるのか

忽那賢志感染症専門医

ロックダウンなどの有効性について検証した研究では、やはり行動制限は感染者数の減少に大きく寄与することが分かっています。

しかし、一方で経済や社会に与える影響も大きいことはご存知の通りです。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されれば、多くの人の生活・行動が制限されることとなります。



今後、重症者数や死亡者数が増えてきたときに、例えば第6波のピーク時のような1日200人以上が連日亡くなるような状況に陥っても、行動制限を取らずに高齢者や基礎疾患のある人が新型コロナで亡くなる状況を許容していくのか・・・これは単純な良い悪いの話ではなく、最終的には日本人の国民性、死生観が問われることになるのではないかと思います。

私自身は「社会機能を維持するためには高齢者や基礎疾患のある人はコロナで死んでも仕方ない」という考えよりも「周りの誰かを守るために自身の行動は一時的に多少制限されても仕方ない」という立場にありますが、どちらが正しいというのではなく、日本人の国民性、死生観が問われるところかと思えます。

盆休みまで3週間-熱暑が続く

この時期「熱暑特需」ともいえる活況が朝の求人市場に訪れる。たいがいの労働者が敬遠したがる猛暑の屋外労働に「スポット求人」があつまるとも。あたらしい顔ぶれも過酷な環境にトライしている。盆までは「人手不足」がつづく。